

第 1 章 観光振興ビジョン策定の目的と策定手順

1-1 背景と目的

市川市は東京都に隣接し、高い利便性を有する住宅都市として発展してきました。他方では、歴史や伝統文化にまつわる多くの観光資源を有し、文教都市としての一面も持ち合わせています。さらには、水辺や緑地など、懐かしい自然に触れることができるスポットも多く残されています。

一方で、少子高齢化が進む成熟した社会の中で経済の活性化を図るためには、交流人口の拡大や需要の創出に寄与する観光振興が有効であるとされています。また、観光を通じて社会参加することにより、地域の自主・自律の精神、郷土愛も醸成され地域の活性化にもつながると期待されています。そこで、国では、観光を地方創生の切り札、成長戦略の柱として位置づけ、「観光立国の実現に向けたアクション・プログラム」に取り組んでいます。

こうした中、市川市と積極的な関わりを持つ人の増加や、地域や経済の活性化を図るために、都市部としての観光施策のあり方、観光資源に関わる様々な団体や企業、市民および市川市各組織との連携など、市川市らしい観光のあり方とその進め方が求められているところです。

そこで市川市では、観光分野における中長期的な将来像を「市川市観光振興ビジョン」としてとりまとめ、市川市民や観光関係団体、地域事業者、行政が目指すべき共通の指針として活用することとしました。

1-2 策定手順と体制

観光振興ビジョン策定にあたっては、「市川市の観光の客観的な現状」と「市民・地域事業者が抱く市川市の観光への想い」を反映するため、現状把握調査とワークショップを並行して実施しました。

「現状把握調査」では、「市川市の観光の客観的な現状」を把握するため、市川市のイメージや観光資源の認知度・興味度、来訪者の旅行実態、市川市の観光に対するニーズなどに係る各種調査を行いました。同時に、市民や事業者、関係団体等で構成された「市川市のこれからの観光を考えるワークショップ」や各種ヒアリング等を行い、市川市の観光が目指すべき将来像や今後の取組、連携等について意見を聴取しました。このようにして、客観的なデータ分析と地域関係者の意見の両方を取り入れながら、本ビジョンをとりまとめました。

▼ 観光振興ビジョン策定までの流れ

